練習問題

一次の**に**の文法的説明をしなさい。

例) あまりに憎き**に**その法師をばまづ斬れ。 ↓完了の助動詞「ぬ」の連用形

① 残りなく戦に出でて、みな**死に**けり。 ↓

② **雨に**向かひて月を恋ひ、…… ↓

③ この枝、かの枝散り**に**けり。 ↓

④ なほ**あはれに**情け深し。 ↓

⑤ 涙落つともおぼえぬ**に**枕浮くばかりになりけり。 ↓

⑥ **ことに**かたくななる人ぞ、…… ↓

⑦ かの**薄**^{すすき}の事習ひ**に**、…… ↓

⑧ これは龍の**仕業**^{しわざ}**に**こそありけれ。 ↓

二次の①～⑧の□にの文法的説明として適当なものを語群のA～Eより選び、記号で答えなさい。

① たけき者も遂には滅びぬ、ひとへ□に風の前の塵に同じ。

② この吹く風は良き方の風なり。悪しき方の風□にはあらず。

③ もろこし□に朴叟という翁たりけり。

④ この馬、同じさまなる馬を、あまた具して来□にけり。

⑤ 京のならひ、何わざにつけてもみなもとは田舎をこそ頼める□に、絶えて上るものなければ、

⑥ この人を具して去□にけり。

⑦ はなやか□にうれしげなるこそ、またあはれなれ。

⑧ 「東の方に住むべき国求め□に。」とて行きけり。

ア 格助詞 イ 接続助詞 ウ 完了の助動詞連用形 エ 断定の助動詞連用形

オ ナ 変動詞活用語尾 カ ナリ 活用形容動詞活用語尾 キ 副詞の一部

三次の①～③の傍線部を□の文法的意味に注意して口語訳しなさい。

① 男、宮仕へしにとて、別れ惜しみて行きにけるままだに、

② 男、異心ありてかかるにやあらむと思ひ疑ひて、

③ 十月つごもりなるに、紅葉散らで盛りなり。